

議事録（要旨）

日 時	令和3年8月3日（火）	時 間	14:00～16:00
場 所	千葉県企業局 幕張庁舎2階 特別会議室 (web 会議併用)	出席者	(懇話会メンバー) 鎌田メンバー (座長)、 小松崎メンバー (副座長) 外10名 (企業局) 田中局長、岩船水道部長、渡辺 水道部次長、並木水道部次長、鳥海計画課 長、小林浄水課長、佐藤給水課長、中村総 務企画課政策・広報室長、その他職員、事 務局職員等
議事名	第1回おいしい水懇話会		
<p>○開会</p> <p>○懇話会の公開について</p> <p>○懇話会メンバー、局職員紹介</p> <p>○局長挨拶</p> <p>○配布資料の確認</p> <p>○座長・副座長の選任</p> <p>○座長・副座長挨拶</p> <p>○議題1 「安全・おいしい水プロジェクト2021-2025」について</p> <p>(1) 概要について</p> <p>資料(p3-7)及び計画書「安全・おいしい水プロジェクト2021-2025」により、策定の背景、キャッチフレーズ、趣旨、目標と施策体系について事務局から説明。</p> <p>主な意見、質疑は以下のとおり。</p> <p>(懇話会メンバー) 水質目標について、残留塩素の水質目標が「安全・安心」と「おいしい」の観点でそれぞれ目標値があるのはなぜか。</p> <p>(企業局) 日本の水道水は感染症の防止や細菌の発生を抑えるという目的で、水道法令により給水栓の水道水の残留塩素濃度は0.1mg/L以上でなければならないと定められている。また、厚生労働省の通知により、においの観点から1mg/L以下という目標値が設定されている。千葉県営水道ではさらに厳しい目標として、この5年間で0.5mg/L以下を目標として低減化を目指していく。ただ安全の面から0.1mg/L以上というところは必ず確保しなければいけないので、低減がだんだん難しくなってきたという状況である。</p> <p>(懇話会メンバー) 施策体系の取組の「⑨貯水槽水道の適正管理の啓発と直結給水の促進」</p>			

議事録（要旨）

について、巡回サービスの件数と、直結給水は計画給水人口の何%を目標としているのか数値目標があれば教えてもらいたい。

（企業局）貯水槽水道の適正管理については、令和3年度から始まった中期経営計画により、10m³以下の貯水槽水道約12,000か所を令和3年度から令和7年度までの5年間で一巡するという形で、貯水槽水道の適正管理に向けた啓発活動と直結給水の促進に向けたPRを行うこととしている。令和3年度は約2700件の適正管理の啓発活動を行う予定である。直結給水の普及率については、令和2年度末の実績74.7%から中期経営計画の最終年度の令和7年度の目標77.6%を目指してPRを進めていく。

（2） 技術的な取組について

資料(p8-11)により、「安全・おいしい水プロジェクト2021-2025」の技術的な取組について事務局から説明。

主な意見、質疑は以下のとおり。

（懇話会メンバー）今まで全配水区域で低減化ができていているという結果について、残留塩素濃度は全配水区域の平均値だと思われるが、実際どれくらいのばらつきがあるのかわかれば教えてもらいたい。

（企業局）0.4mg/Lを下回るときもあれば0.7mg/L近くとなるときもあり、平均すると令和2年度で0.56mg/Lということになる。

（懇話会メンバー）これから情報を集計していく際に、関連する水質項目や時期なども調べられるとよいと思われる。

（懇話会メンバー）残留塩素低減について、今後0.5mg/L以下にしていくことを目標に掲げられているが、お客様の閾値があると思うがそのあたりも気にしているのか。どのようなことを基準に目標を決めたのか。

（企業局）塩素のにおいの感じ方については人によって閾値の差があると考えられる。平成18年度においしい水づくり計画を策定した際には、策定懇話会や浄水場見学会などで残留塩素を調製した水道水を実際に飲んでもらい、ほとんどの方が塩素臭を感じない濃度ということで0.4mg/Lという目標を設定し、取組を進めてきた。一方残留塩素については安全の観点から残留塩素濃度0.1mg/L以上は水道事業者として守らなければならないので、低減化は慎重に進めているところである。

（3） お客様との取組について

資料(p12-19)により、「安全・おいしい水プロジェクト2021-2025」のお客様との取組について事務局から説明。

主な意見、質疑は以下のとおり。

（懇話会メンバー）おいしい水検定について、今コロナで直接お客様と触れ合う機会が少ない状態なので、検定を行うことで皆様の関心が広まりホームページのアクセス数が増えると思うので、とてもいい機会に設定したと思う。

議事録（要旨）

（懇話会メンバー）オフィシャルサイトのアクセス件数が増えたり、県水だよりも多く読まれたりしている。コロナ禍で時間もあるし、不安もあるし、水道水は毎日飲むものなので、水道への関心が高まっているのではないか。このタイミングでおいしい水検定っていうのは面白いことを考えたなと思う。

（懇話会メンバー）検定用グッズは500mLの水筒のイメージなのか。

（企業局）現在コロナ禍で、利き水等ができない状況なので、すこしでも水道水を飲んでもらうために、このような折り畳みボトルの中に水道水をいれてもらいたいと思っている。

（懇話会メンバー）このボトルは水温をキープできるものなのか。

（企業局）保温性はないと思われる。

（懇話会メンバー）折りたためるのはよいと思う。

○議題2 「千葉県営水道事業中期経営計画」について

資料(p20-21)及び「千葉県営水道事業 中期経営計画（令和3年度～令和7年度）の概要」により、千葉県営水道事業中期経営計画の概要について事務局から説明。

主な意見、質疑は以下のとおり。

（懇話会メンバー）資料の主要施策（7）「大規模事業者の責務と社会貢献」について、国としても一企業としてもサステナブルな社会というところで2050年に向けて更なる環境負荷低減の取組が求められていると思われる。県営水道の使用電力の何%が、説明にあったマイクロ水力発電設備や太陽光発電設備の再生可能エネルギーとなっているのか。

（企業局）マイクロ水力発電と太陽光発電は、合わせて令和2年度に427万5000kw発電している。使用率は、当局の年間の使用量の3%程度、金額にすると約2070万円の削減効果となっている。

（懇話会メンバー）今後このような施設を増やしていく計画はあるのか。

（企業局）現時点では具体的に増やす計画はない。

（懇話会メンバー）基本目標Iにもあるが、今水道は強靱という話が出てきていて、おいしい水、もちろん安全な水も大事なんですけれど、違った観点も持ってもらいながら、上位計画として中期経営計画があるということを踏まえて、今後の安全・おいしい水プロジェクトを考える上で参考になればいいと思う。

全体を通しての意見、質疑は以下のとおり。

（懇話会メンバー）おいしい水プロジェクトの取組が大変よくわかった。たくさんの方々の努力と年数をかけての色々な取組により千葉の水がおいしくなったということだと思う。これを更に維持していくことと同時に安全で安心な水を供給していくということが重要だと思う。私の東北に長い間住んでいた友人がつい最近松戸に越してきて、水の話をしたところ、私は千葉の水はおいしいと思っていたが、友人はすごくまずい、東北に住んでいた頃と全く違うと言っていた。何かと比較して、おいしいとかまずいとかいうふうに、アンケートは主観的なものなんだということを感じている。アンケートの項目を色々工夫する必要があると

議事録（要旨）

感じた。

（懇話会メンバー）今の意見を参考にしながら、継続的な評価なのであまり項目を変えてはいけないところもあると思うので、ちゃんと千葉の水が磨かれたなという結果が出るようにうまく運用いただければと思う。

○局長挨拶

○連絡事項・閉会

以上